「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

対　策　分　析　シ　ー　ト

対策メニュー名	ポンプ・ファン・ブロワーの不要時停止	シート番号	A24011
システム・設備	電動機・ポンプ・ファン	6 類型	運用改善
削減余地順位	全体：33 位　産業部門：15 位　業務部門：40 位		

診断結果と対策提案実施の状況（診断結果は H28～R2 年度診断分、提案実施状況は H28～H31 年度診断分）

表 1．診断結果（対策の削減余地・診断時の提案率）　▶ 削減余地の大きい 5 業種（診断件数 20 以上）

	全体	産業部門	業務部門	80 娯楽業	82 教育、学習支援業	25~31 機械工業	21 窯業・土石製造業	85 社会保険等の事業
削減余地 [千 t-CO_2]	920	524	396	104	72	66	62	48
診断件数	3,303	1,216	2,087	129	27	127	35	484
診断時提案数	316	206	110	17	1	31	6	26
診断時提案率	10[%]	17[%]	5[%]	13[%]	4[%]	24[%]	17[%]	5[%]

表 2．対策提案の実施状況

	全体	産業部門	業務部門	80 娯楽業	82 教育、学習支援業	25~31 機械工業	21 窯業・土石製造業	85 社会保険等の事業
事業報告書提案数	251	164	87	14	0	22	5	24
事業報告書実施数	89	63	26	3	0	9	1	5
事業報告書実施率	35[%]	38[%]	30[%]	21[%]	-	41[%]	20[%]	21[%]

表 3．実施された対策の内容

	項目		最大値	中央値	最小値	平均値
提案・実施内容	CO_2 削減量	[t-CO_2/年]	93.4	2.7	0.01	9.5
	導入コスト	[千円]	3,000	0	0	159
	運転コスト削減	[千円/年]	3,433.6	100.9	0.4	315.0
	事業所 CO_2 削減割合	[%]	15.4	0.6	0.003	1.4

表 4．提案された対策の実施理由・未実施理由

実施理由	初期費用が安かったため	16	「省エネ効果の根拠が明確で確実性があるため」が実施理由の半数。
	補助金を活用できたため	3	
	投資回収年数が短いため	3	
	省エネ効果の根拠が明確で確実性があるため	41	
	その他　（無回答を含まず）	17	
未実施理由	初期費用が高かったため	2	「対策実施により事業所の操業に影響が生じるため」(27[%])「提案された設備の機能や運用に懸念」(24[%])など操業影響、設備機能への懸念が多い。
	提案された設備の機能や運用に懸念	13	
	補助金を活用できなかったため	1	
	投資回収年数が長かったため	1	
	省エネ効果の根拠が不明で確実性がなかったため	5	
	既存設備がまだ使えたため	3	
	対策実施により事業所の操業に影響が生じるため	15	
	その他　（無回答を含まず）	15	

表 5．同時に実施されることが多い対策

同時実施の順位	メニュー番号	対策メニュー名	同じ大分類
1	21031	LED 照明の導入	
2	11135	高効率パッケージエアコンの導入（老朽化更新を含む）	
3	24022	ポンプ・ファン等の回転数・流量・圧力調整（インバータ制御等）	○
4	24012	ポンプ・ファン・ブロワーの流体洩れ対策の実施	○

※ 特記事項

1. 実施された対策について（表 3）
   (1) CO_2 削減量が 20[t-CO_2/年]以上は 13 件で、うち最大事例は乾燥ファンの運転時間適正化（生産時のみ運転化）で投資（試運転費）100 千円、2.4[百万円/年]の運転コスト削減、事業所 CO_2 削減割合 5.5[%]。
   (2) 導入コストが記載されているのは 18 件（実施の 2 割）で、最大事例はブローエア使用状況に応じた集塵機風量（回転数）制御をするもの。CO_2 削減量 31[t-CO_2/年]、投資回収年数 2.5 年。
   (3) 事業所 CO_2 削減割合の最大事例は投資なく（休日、夜間の）不要時のコンプレッサー停止で CO_2 削減量が 25[t-CO_2/年]、809[千円/年]の運転コスト削減。
2. 投資をほとんどせず効果があるので実施率は高い。(表 2)